

LipoTEST Case Report vol.21

2018年9月

Case21： 著しい脂質代謝異常に急性膵炎を併発した糖尿病の犬の1例

症例：マリアペットクリニック 末次文雄先生（2018年JCVIM 発表演題より）

【Profile】

■ 背景

日常診療において、糖尿病性ケトアシドーシスは診断の予想がつくが、急性膵炎は臨床症状が非特異的であるために診断が困難になることがある。このため両疾患が併発した場合、急性膵炎の発見が遅れる可能性がある。今回、糖尿病と著しい脂質異常症をきたし、急性膵炎を併発したと思われる症例を経験した。

■ 症例

- ・トイプードル、7歳5ヵ月、避妊雌
- ・普段から暴食、人の食事の盗食の癖あり、過去に異物摂取歴もあり

■ 主訴、検査

- ・前日からの急性嘔吐と血便、沈うつ状態。3ヵ月前からの多飲多尿
- ・血液検査：血糖=504mg/dL, 中性脂肪(TG)=1381mg/dL, CRP=21mg/dL
糖化アルブミン(GA)=48%, 膵特異的リパーゼ(cPL)=1526μg/L
- ・尿検査：ケトン体陽性
- ・腹部エコーで膵実質腫大と膵管の膨張、膵周辺組織の高エコー源性を確認
- ・頻呼吸、肺全葉にわたる間質パターン、炎症性胸水貯留

■ 診断

- ・急性膵炎、糖尿病性ケトアシドーシス、脂質代謝異常、急性肺障害

【治療と経過】

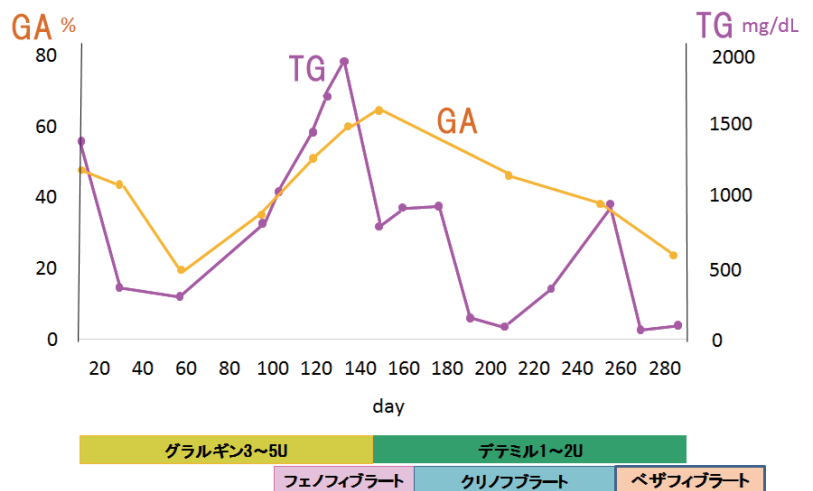
■ 初期治療（入院時）

- ・糖尿病：レギュラーインスリン投与
- ・急性膵炎：輸血、プレドニゾロン投与

→急性膵炎症状は終息も、糖化アルブミン高値、脂質異常症は持続

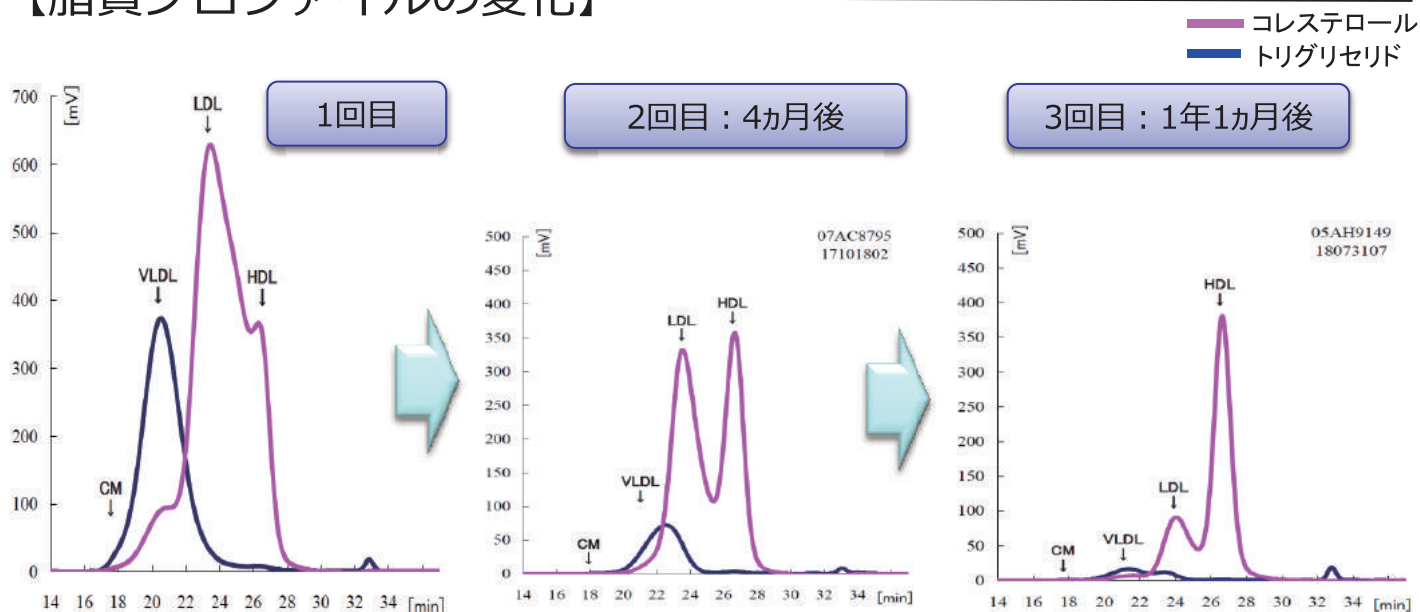
■ 膵炎終息・退院後の治療

- ・糖尿病：
インスリン グラルギン
→インスリン デテムルに変更
- ・脂質異常症：
フェノフィブラート（リピディル）
→クリノフィブラート（リポクリン）
→ベザフィブラート に変更



⇒ 裏面に続く

【脂質プロファイルの変化】



■ LipoTEST検査所見 (単位mg/dL)

- ・ 1回目 分類：パターン4・複合逆転型 (VLDL-TG= 871, LDL-Cho= 455)
- ・ 2回目 分類：パターン4・複合逆転型 (VLDL-TG= 115, LDL-Cho= 190)
- ・ 3回目 分類：標準型 (VLDL-TG= 38, LDL-Cho= 55)

■ 脂質代謝改善治療

- ・ 当初は「リピディル」と「リポクリン」を投与も不応。薬剤を「ベザフィブラート」に変更。その結果、中性脂肪、特にVLDL-TG低下の効果が得られた。
- ・ 当初は高LDL-Choも呈していた。324病日に甲状腺機能低下症を確認後、甲状腺ホルモン製剤の処方を開始してから、T-Choが安定し、LDL-Choも低下した。
- ・ VLDL-TG、LDL-Choが正常化し脂質代謝異常が改善してから、糖化アルブミン値も低下し、糖尿病のコントロールも安定している。

【考察、解析結果に基づく治療への評価】

- ✓ 脂質代謝異常を伴う糖尿病では、暴食により急性膵炎を発症するリスクが示唆された。
- ✓ 因果関係は不明であるが、糖尿病、膵炎と併発して脂質代謝異常があった本症例では、LipoTESTに基づく脂質代謝異常改善治療により、病態の安定化につながった。

◆ LipoTESTに関するお問合せ先

スペクトラム ラボ ジャパン 株式会社

- * 詳しい情報に関しては、右のQRコードよりLipoTEST Webをご覧ください。
- * 検体送付キット請求は、下記記入しFAX (03-5731-3631) にてご返送下さい。



病院名		氏名	
住所		TEL	